

第5回 大宮公園グランドデザイン検討委員会 議事要旨

- この提言は誰に対してのものなのか。そこを明確にした方がよい。
- これは検討委員会から県に出すものである。グランドデザイン検討委員会の報告であり、行政計画とは異なる。また、行政を拘束するものではない。今回は、報告書に盛り込むべき内容や行政に対して配慮してもらいたいことについてご意見をいただきたい。報告書のまとめについては、委員長一任でお願いしたい。
- これだけ多くの県民意見が寄せられることは珍しく、関心が高いことはありがたいことだ。このグランドデザインを立ち上げた意義は果たせのではないかと思っている。目次のところで「(参考)将来像の実現に向けて」とあるが、「参考」ではなく8章として構成すべき。イメージだけを示して実現への展開やプロセスを記載しないのは無責任だ。皆さんと議論して提案したい。
- グランドデザインという言葉が曖昧である。わかりやすく言えばビジョンだ。1ページで「目指すべき将来像」と記載している部分がグランドデザインである。明確なイメージを提案してステークホルダーの人たちにもイメージを共有してもらい、具体的なアクションプランにつなげるという位置づけである。
- なぜグランドデザインを描いているか、3つのポイントがある。1つは、130年経った歴史ある公園で全体としてのクオリティが落ちている、という現状の問題がある中、これからの新しい展開を見通した上で、公園をどうするか考える必要があるということ。次に、公園政策の新たなステージへの転換だ。これからは、面積を増やす量的な整備ではなく、地域社会にどう貢献するかが重要となる。民間活力の導入によるサービス向上、待機児童対策などの課題解決、その他、地方創生や観光振興など、公園に求められる役割は少なくない。埼玉県のパークもこうした転換点にあり、大宮公園がそのモデルとなるべきだ。最後に、まちづくりの視点である。大宮公園は、さいたま市だけでなく、埼玉県全体のまちづくりの大きな流れをつくる起爆剤となる場所であり、しっかりしたビジョンをつくる必要がある。
- 8ページの「みんなでつくり育てる、氷川の杜から広がる“大宮グランドパーク”」についても様々なご意見があった。考え方を整理すると、大宮公園はもとは氷川の杜そのものであり、その社叢がここで記載されている荘厳である。また、自然の面や埼玉県の原風景である見沼たんぼを重要なエコロジー拠点として保全してきた。このように、大宮公園には、精神性から文化性、生態系といった要素があり、第二、第三と分けることなく連続的な空間として位置づける整理をさせていただいた。
- 10ページにゾーニングを示したが、イメージをもってもらうため、「氷川の杜」、「桜の丘」といったネーミングをした。「文化の杜」の「もり」は「森」にしたほうがよい。埼玉県での「武蔵野」

という言葉は、人間と自然が共生してきた空間であり、人間的で文化的な自然で非常にやさしい森である。

- スポーツに関して、既存の施設は使用していく。今後の施設整備は、全国的にPark-PFI¹の手法で行われつつある。埼玉県でもまだ実例はないが、今後そうなるだろう。それには、要綱の作成や公募手続きなどを行う必要がある。それに少なくとも数年かかるので、その間に第二公園側に多機能スタジアムが完成した後に既存の施設をどうするのか考えておく。パブリックコメントの意見を見れば、その長期的なステップを示して理解してもらう必要がある。
- 「遊びの広場」では、世代を担う子ども達が体を動かすことや自然を体験することなど様々なことを経験してもらわなければならない。そのような空間は埼玉県を中心とする公園には必要だ。「武蔵野の里」は「見沼ビオトープ」につながった方がよい。ランドスケープとしては、武蔵野の雑木林の風景から芝川に沿って見沼ビオトープと一連にすることにより生態系としてつながる。
- 委員の意見やパブリックコメントでの県民意見を踏まえて、極力納得いただけるようにした。11ページの赤字の部分がその内容である。12ページ以降はスケッチ。将来的には夜間利用は当たり前になってくる。外国人も楽しめる空間になるのではないかな。
- 議論の前提として、これから埼玉県のみならず、日本全体の人口が減少して、税収も減っていく。県民の年齢構成も高齢者が増えていく。こうした見通しを踏まえた議論であることを「3.1社会動向」の部分に記載すべきだ。
- 「3.1社会動向」の部分に「オリンピック・パラリンピック等を契機として」とあり、その後にインバウンドの取組みとなっている。パラリンピックを契機とする以上、障がい者への対応を明確に記載し、目指していくべきだ。
- 全体のコンセプトが「みんなでつくり育てる」とあるが、レクリエーションスポーツの広場で皆さんが参加できるよう、余白となるスペースが必要である。また、今後、プロスポーツもチームと競技場の運営が一体になるのは避けられないことから、商業活動を奨励しないまでも、将来の制限にならないよう、表現を工夫すべきだ。
- 「レクリエーションスポーツの広場」や「スポーツの広場」において、「スポーツ」という表現であるがために、アートなどの文化的な活動を排除することのないよう、配慮していただきたい。皆さんが自由に使える余白をなるべく持たせたい。
- アートは今では、食べるもの、住む空間など様々なところに入ってきている。

¹ 平成 29 年 6 月の都市公園法改正により創設された公募設置管理制度のこと

- イラストにトランペットを吹いている人の絵を追加してもらえるとよい。
- 東京都の公園ではヘブンアーティストといって大道芸を入れているところもある。公園は本来自由な場所である。
- これまで公園に足りなかったのは野遊びだと思う。団体施設や収益施設が建設され、県民が遊べていなかった。
- 「野遊び」という表現はよいと思う。英語で“play”と括れるものは何でもよいとしてもいいのではないか。
- 2つの点でいいと思う。まず、周辺に住んでいる人の視点。私自身も、こういう公園があれば、近くに住みたいと思う。もう一つはインバウンド的な視点。そこに住んでいる人によく利用されている公園は、それ自体に価値があり、原風景も合わせるとインバウンドにも価値があり、需要もある。
- 将来像のコメントで「都市公園から世界にアピール」とあるが、「世界に誇れる」や「世界の人に愛される」といった表現がよりよいのではないか。また、公園をライフスタイルに取り入れ、生活レベルが向上している、ということが表現されるとよい。
- これから公園の価値は量から質に転換するとのことだが、質とは何か、もう少し落とし込めるとよい。質とは周辺住民が誇れるとかいうものならば、公園の状態を図る指標に落とし込めるとよいのではないか。それにより、公園の現状や方向性を理解でき、誰もが共通認識を持てるようになるのではないか。
- 楽しそうに公園を利用している日本人のライフスタイルが見えることが一番だと思う。
- 8ページで「氷川の社叢」からすぐに「駅からの回遊性」となっていることに違和感がある。その間には約2 kmの氷川参道があり、加えるべきだ。また、3つの公園を一体として考えるのが前提だが、それを「ネットワークの強化」と表現するのも違和感がある。
- ネットワークとは独立しているものをつなぐときに使う表現であり、ここでは3つの公園を一体として考えるのだから、この表現は確かにおかしい。
- 先日、地元の人たちも入っている大宮公園魅力アップ協議会に出席した。そのメンバーに「将来像のイメージ」を事務局が説明したが、彼らは概ね喜んでいて、地元も是非協力したいという声もあった。その一方で、アカマツやサクラが傷んでいるので、そういうところはすぐに対処してほしいという声もあった。また、1ページの図に「大宮グランドセントラルステーション構想」や「さいたま新都心将来ビジョン」など、さいたま市の計画も載っているが、本当に連携していくことがで

きるのか、という話もあり、地元の人はそのまで見ている。

- 地元の方々は、使えるうちは既存の施設を使用したい、と言っている。この先使用できなくなるのか疑心暗鬼になっているようだ。50年、100年といった将来のビジョンとして、本当に既存のスタジアムが今のところであり続けることがよいのか。グランドデザインでは、公園全体を長い目で見たときに、競技の場は第二公園の方に移すんだ、ということを示すのは大事だと思う。
- スタジアムをどこに設置するのも市民に委ねる、という考え方もあるのではないかと思う。
- そういう考えもあるが、氷川神社があって、これだけのオープンスペースがあるので、自然的と人間的、聖的と俗的といったグラデーションがあった方がいいだろう、ということで整理した。
- 民間活力を使って整備しようとするとき、今ある施設がなくなるまで新たな整備はできません、となると、民間は入っていけない。
- その通りだ。多機能スタジアムを第二公園としたとき、アクセスやその他の点も含めて、自信をもってここが最適と言えるのか。
- 多機能スタジアムは、今あるサッカー場や野球場から距離にして500m程度。遠いという人もいるが、それほど遠いという意識はない。埼玉スタジアム2002では、浦和美園駅から何も無いところを1.5km歩く。その間に賑わいの空間をつくれないうちを考えているところである。同じように、この500mの間を、歩いていて楽しいというような空間にできればよい。
- 10年後には自動運転が実用化され、駅の必要性は低下するだろう。だいぶ風景は変わっていると思う。競技場は商業施設になっていくはずであり、その時にカフェやバーをつくれないうちを、ということにならないようにしたい。この点でグランドデザインの意味がある。
- 国もその点は自由化していこうという流れだ。今までは、公園であればダメ、これはダメというのが市民の認識だったが、皆のためになることはいい、という時代になっている。
- 素晴らしい公園を計画するのであれば、夜間利用も前提とした方がよい。その時、新たに設けるサービス拠点を結ぶ動線について、将来どのようにしていくのか、夜間にどうやってアクセスできるようになるのか示せるとよい。
- かつて平成10年頃、博物館の夜間開館が行われたことがある。試行的に19時頃まで延長したが、周知されなければ利用につながらない。大宮公園は、駅からの動線は明るい、博物館周辺は薄暗い。夜間開館するならば、そこまでのアクセスの工夫も必要だ。氷川参道は、この1月は露店も出て夜遅くまで人出があった。何をライトアップして、動線をどうするのが重要だ。恒常的なのか、イ

ベント時だけなのか、という視点もある。

- これまでの公園は照明が十分でない。上野のグランドデザインを策定した時に全て整理し、照明を明るくした。照明計画について検討することをグランドデザインに入れ込むことは必要である。夜間利用を考えることは地域住民や観光客にとっても重要である。
- 電源は最低限必要なインフラとして整備すべき。アメリカのオートキャンプ場みたいに、キャンピングカーが来て、アタッチメントですぐ使えるような感じである。
- 毎年イベントをやっているが、何かあるたびに禁止事項が増えていく。第三公園は禁止事項がずらっと書かれている。必要なものもあるが、今後はイベント時には緩和するなど柔軟性があってもいいのではないか。そういう記述がない。
- 10ページのサービス拠点について「明治・大正期の趣が感じられる」とあるが、かつて名だたる文豪たちが遊びに訪れていた歴史があるから、そう言っているのであって、そうした話題も載せる必要がある。
- 森鷗外は小説「青年」の中で、「静かでよいところだ」と主人公に語らせている。寺田寅彦の「写生大会」でも絶賛しているなど、文学作品での評価が高い。そういうところも触れたらよい。
- 参考としてハード施策の今後の取組みが示されているが、ソフト施策についても示す必要がある。行政、市民、企業等がうまく連携してグランドデザインを進めていくのが大切だ。すぐに動きたい人もいるので、そうした人たちへのメッセージがあってもいいのではないか。
- 参考の「将来像の実現に向けて」について、5年とか30年という具体的な年数ではなく、短期、中期、長期と表現することにした。短期とは、今ある問題への対応ということで、ユニバーサルデザインやトイレ、植栽の整備など、公園の当たり前のサービスレベルを維持すること。その間に次のステップを提案して、民活導入の手法や近未来の公園のありようの検討、啓発活動などに取組んで中期、長期につなげていく。
- 氷川神社で植樹の寄付を募ると結構集まる。そして、植樹して木も増えてきて、参道にたくさん人が集まっている。このように、寄付も活用できれば市民も協力できる。現在はそのような窓口がない。
- 「経済的に継続可能な」という表現を入れるはどうか。そこに自治があって、誰の資産でもないものをみんなでつくり育てるようなイメージだ。もっと言うと、稼ぐ公園になればいい。
- 住民感覚からすると、大宮公園がよくなれば周辺もよくなると思う。いろいろな意見や要望がある

が、全て県にお願いするのでなく、自身も協力したいという住民もいる。住民をもっと信頼してほしい。

- そもそも公園は住民のものである。今の日本人は、管理者がいると管理者に苦情を言う。その管理者も予算が削減されており、悪循環になっている。全国の公園がそのような状況なので、何とかしようと、指定管理者制度やPark-PFIなどいろいろな動きがあり、民間も行政のただ下請けをするのではなく、主体的な取組みを行う、といったように変わりつつある。
- トイレや水周りの整備は先にやるべきだ。水が汚いのは厳しい。「地形を生かした水の流れの整備」は長期的な取組みになっているが、最初に整備した方がよい。水の流れがないと、きれいにはならないと思う。そうすることで、新しいイベントを仕掛けていこうという気持ちにもなる。
- 公園は緑と水が命だ。氷川神社は湧水に由来する。降った雨を池に戻すとか、地面に浸透させて、木が吸い上げて循環する、そういうエコロジカルな視点も必要だ。
- 非常によいランドデザインになったと思う。埼玉県は一番伸びている地域だ。大宮駅周辺は玄関口であり、多くの人が利用する。大宮公園が埼玉県の顔となるような設えになっていけばよい。ビジネスの視点から言えば、埼玉には世界品質のものづくりがある。ラグビーのホイッスルなど、これは実は埼玉製、というものが少なくない。埼玉のものづくりを多くの人に気付いてもらえる仕掛けがあってもよいのではないか。
- そうしたことを市民の方が思いついたときに、やりやすい環境があるとよい。やはり余白の部分が必要だ。
- 大宮公園駅にはあまり触れていないが、駅と協議するのも意味がある。JRや東武鉄道を巻き込むことで、大宮公園のイメージを駅に反映してもらうのに重要なので、検討してもよいのではないか。
- 大宮公園魅力アップ協議会には、鉄道事業者にも参加いただいている。
- その協議会を膨らませていければいいのではないか。
- 構想は非常によい。この公園を世界的に有名にしようとするならば、コンペ形式でやるという方法がある。予算がいくらとか提示しないでコンペをやると面白い。ノミネートしてきた企業に、公園の方針を伝えて、企業はただデザインするのではなく、将来の運営や組織体等まで含めて提案する。その金額は関係ない。その提案でニーズに応えられるものなら、その内容で改めて企業が金額の競争をする。日本の指定管理者制度は、行政の負担を抑えることだけが目的になっており、いいものにするというものじゃない。指定管理者制度のあり方も変えていかなければならない。公園でビジネスが成り立つかが重要で、そういう運営組織まで謳っておく必要がある。

- P F I だけが記載されているが、資金調達の方法は他にもある。資金の集め方として最近では、SIB²や、休眠預金の活用などがあり、地域の金融機関もESG投資³として地元の地域づくりに積極的に参加するよう日銀も指導を進めている。当然、今までの審査をしてからの融資ではなく、自ら投資する動きもある。税金にばかり頼るのでなく、そうした新たな時代にあった手法を研究すべきである。
- 今後、現地で工事も行われていくと思うが、その際には、グランドデザインに沿って進めているということを発信してほしい。そうすることで、グランドデザインの理解も広まると思う。
- 本日の議論も踏まえて報告書をまとめる。まとめにあたっては委員長一任とすることを願う。動きが見えるようにしていきたいし、全国区で勝負できるような形にできるとよい。引き続き、新しい時代の大宮公園がスタートするようご支援いただきたい。長いことお付き合いいただきありがとうございました。

² SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）とは、民間の活力を社会的課題の解決に活用するため、民間資金を呼び込み成果報酬型の委託事業を実施する社会的インパクト投資の取組み。

³ ESG投資とは、環境（Environment）や社会（Social）、企業統治（Governance）に対する企業の取組み姿勢をもとに投資を判断する運用手法。